

## 2021年4月12日 聖書朝礼

「こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた。彼らは恐れおののき、亡霊を見ているのだと思った。そこで、イエスは言われた。『なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか。わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ』」。  
～ ルカ24.36 ～

全校の皆さん、おはようございます。

皆さんはどんな季節が好きですか。私は春が好きです。寒がりの私にとって、春の暖かい日差しは子供の時から好きでした。そして、春の花も好きですが、冬の寒さに固くなった土や木の皮を破って、草木は芽吹き、新しい命が躍動する、やさしい黄緑の色彩の自然界は何とも言えない美しさを感じ、毎年この春の始まりを楽しんでいます。

もう一つ春が好きな理由は復活祭があるからです。日本では、宗教の有無なくみんなが喜ぶお祝い日としてクリスマスがありますが、キリスト者にとって最も重要なお祝い日は復活祭です。復活祭というとまだ分からない新入生の皆さんもいるでしょう。クリスマスがイエス・キリストの誕生を祝う日であれば、復活祭は、罪なきイエス・キリストが十字架にかけられて死んで、三日目に復活したことを記念する日です。新しい命が躍動するこの春に復活祭を祝う事にも大きな意味があります。「復活祭」という言葉は初めて聞いても、「イースター」という言葉は聞いたことがあると思います。

さきほど読まれた聖書の部分は復活のミサで読まれる箇所です。復活したイエスの最初の言葉はヘブライ語の「シャローム、平和」です。罪なきイエスがユダヤ人によって十字架刑によって殺されたことはイエスの弟子たちにとって大きな衝撃でした。イエスの弟子であることを理由に自分たちも殺されるのではないかという不安と恐怖に襲われ、みんな逃げて家の鍵を固くかけていました。そういうところにイエスが現れます。鍵が閉まっているのに、弟子たちの真ん中に来て「シャローム」と言われます。悲しみの中を歩いている弟子たちと一緒に歩いてシャロームと声をかけます。「あなたがたに平和があるように」と優しく声をかけてくださいます。私たちは、何事もない時に人に優しく接することはそれほど難しくありませんが、人に裏切られたと思った時、傷つけられたときに、その人のために平安を祈ることは中々難しいことです。イエスのご自分が一番苦しい時、一番一緒にいて欲しかった時に逃げ出した弟子たちを責めることなく、やさしい声でシャロームと言って最愛の弟子たちを慰め励まします。

私たちも日々の生活の中でこのシャロームの挨拶を沢山交わして生活したいですね。相手の幸せを願って「おはよう」、相手を励まして「こんにちは」と相手のシャロームを願って、笑顔で挨拶をかわしましょう。

イースターと言えば「イースターエッグ」ですね。ひなが固い殻を破って生まれてくる様子を、キリストの復活にたとえて卵を食べる習慣があります。教会でも復活のミサが終わると可愛く描いたり、綺麗な色で染めたりした卵を配りますが、今年はコロナのことでイースターエッグもなく寂しく思いました。イースターエッグではありませんが、イースターの喜びを小さなチョコレートに収め、皆さんに届けたいと思います。楽しみにしてください。

